

# 萬 萬 歳



八百津町長 金子政則

シカゴ先物取引所名誉会長・最高経営者顧問、レオ・メラメド氏から急遽面談応諾の回答があり、シカゴへと出張いたしました。5月、ユネスコ世界記憶遺産登録申請に向けて、杉原千畝氏の人道行為を記す記録物を申請対象としてその全貌を示すのが「杉原リスト」査証・公電・手記であります。その中でも、ユネスコ世界記憶遺産登録申請を補強する記録物として欠かせないひとつが、生存しておられるレオ・メラメド氏の査証でありました。レオ・メラメド氏は、シカゴの中心地・高層ビルの中にある広いオフィスの中に迎えてくださり「私は父とともに敦賀港に上陸しました。私は生きています、これで生きていくことができると思いました。杉原さんのことであれば私のできる限りの協力を約束します。訪日の機会があれば、ぜひ八百津を訪れたい」と語られました。



▲金子町長とレオ・メラメド氏(右)



▲金子町長とネイサン・ルーウィン氏(右)

レオ・メラメド氏のほか、ワシントンDCで活躍中の弁護士、ネイサン・ルーウィン氏にも面談、査証のデータ提供の確約を得ることができました。ネイサン・ルーウィン氏は、「杉原さんのおかげで私は大勢の家族にも恵まれてアメリカで生活しています。この査証は私たち家族の宝、命より大切な査証です」と感慨深くお話しくださいました。さらに、シカゴのイリノイ州ホロコースト記念館の所有査証が1通、ワシントンDC米ホロコースト記念館の査証が11通、さらにはニューヨークMuseum Of Jewish Heritageの11通を、それぞれ責任者と面談しデータ提供の承諾を得ることができました。

杉原リストに記載されている査証は、世界中に2,139通ありますが、戦争の混乱期や長き時の中でその多くが失われています。また個人情報の秘匿性等もあり、2,139通すべての収集は困難ですが、ユネスコ世界記憶遺産登録を機にできる限り資料保存に向けて取り組まなければならないと痛感いたしました。

八百津町は、郷土が生んだ先人、杉原千畝氏が行った人道博愛の行動が世界中の多くの方の命へとつながっていること、一人の勇気ある決断が世界を変えていく力となり得たこと、私たちはこの人道博愛精神を後世の子どもたちへと語り継ぐ使命とともに恒久平和の願いを世界に向けて発信していかなくてはなりません。

今回の訪米では多くの生存者と直接お会いし、八百津町の思いをお伝えすることで、人種や国を超えて相互に理解し合い情報提供の協力を得られたことに大きな手応えを感じました。改めて、この「杉原リスト」ユネスコ世界記憶遺産登録の重要性を強く感じるとともに成し遂げる決意をいたしました。

申請書類は5月19日に文部科学省に提出しました。その後、文部科学省がユネスコ本部に提出します。どうぞみなさまの力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。